

浜松市省エネルギー診断モニター事業

# 事例発表資料 『スプラト工業株式会社』

本資料は、(一財)省エネルギーセンターが実施した令和7年度 省エネ最適化診断の報告書（令和7年度 エネルギー利用最適化診断等事業）をもとに作成しています。

# 1. 事業者の概要



## 【会社概要】

名称	スプラト工業株式会社
設立	昭和53年7月
資本金	1,000万円
事業概要	自動車部品の製造、加工、組立
代表者	代表取締役 神谷 訓行
主要取引先	平岡ボデー(株) 第一工業(株) (株)スニック 他

## 【省工ネ診断受診 事業所概要】

名称(所在地)	本社工場 (浜松市中央区和合町220-1128)
従業員	50名 (令和7年12月現在)
事業所の規模	二階建て社屋 + 工場1棟 延床面積635㎡

## 2. 省エネ診断を受診したきっかけ



省エネによる環境への配慮や  
持続可能な経営を実現したい。

エネルギーコストの削減、脱炭素化を進めるために、どこに問題があるかどのように進めてよいか専門知識がなく困っていました。専門家による診断を受ける事で自社だけでは気づきにくい課題や改善策を把握したいと考えました。

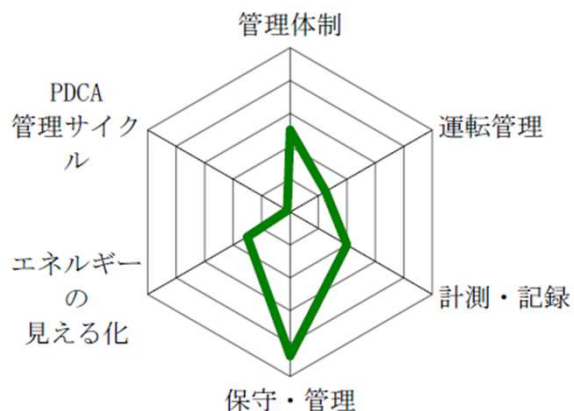
# 3. 省エネ診断の結果概要

## ① エネルギー削減ポテンシャルについて

診断の結果、原油換算で20.8kL(19.1%減)、CO2換算で39.1t-CO2(19.0%減)、金額で約279万円のエネルギー削減ポテンシャルがあることが分かりました。  
内訳として、投資不要の運用改善が9.6kL分、投資回収5年以内が9.5kL分でした。

【エネルギー管理状況について】

(省エネ最適化診断報告書P.1より)



貴事業所の平均点は1.9でCランク(※1)です

※1 診断実績をベースとする参考値  
Cランク：平均点3.4以下(分布の上位40%圏外)

【年間エネルギー使用状況と削減ポテンシャル】

(省エネ最適化診断報告書P.1より)

	現状	削減量	削減率
原油換算量 [kL]	109.1	<b>20.8</b>	19.1 %
CO2排出量 [t-CO2]	206	<b>39.1</b>	19.0 %
エネルギーコスト [千円]	13,295	<b>2,794</b>	21.0 %

削減量内訳：原油換算量(kL)

投資区分	I	II	III	合計
電気	9.6	9.5	1.7	20.8
燃料・熱	-	-	-	-

投資区分 I：運用にて実施可能な提案  
II：投資回収年数が5年以下の提案  
III：投資回収年数が5年を超える提案

### 3. 省エネ診断の結果概要

## ② 提案：エア漏れ防止の効率改善

【コンプレッサの動作状況】



運転データ			
10月 7日13:19:50		10秒	
吐出圧力	0.60 MPa	電流	59 A
吐出温度	79 °C	ロード状況	ロード
周辺温度	28 °C	運転状況	運転
周波数	248.6 Hz		
USB保存			

設備内部からエア漏れと思われる音が聞こえました。

生産設備の総点検時に合わせて配管系統全体の漏れをチェックし、補修対策を実施することで、コンプレッサの電力使用量を削減できることが分かりました。

【エア漏れしていると思われる箇所】



設備内部からの漏れ音あり



非稼働時は  
バルブ閉

#### 【実施した場合の削減量】

投資金額：0 千円

省エネルギー量：7,415 kWh

**削減金額：202 千円/年**      **投資回収：0 年**

原油換算量：1.7 kL

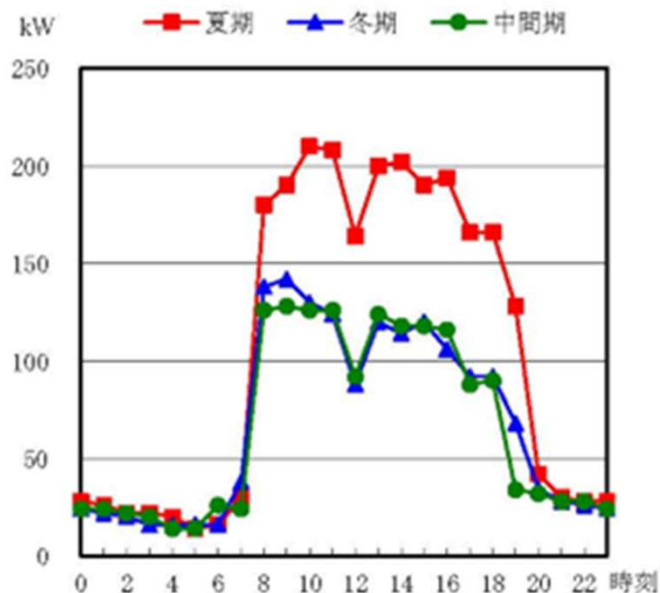
CO2削減量：3.1 t-CO2

## 3. 省エネ診断の結果概要

### ③ 提案：非稼働時間帯での設備停止

【電力の時間別使用状況について】

(省エネ最適化診断報告書P.5より)



電力使用量のデータから夜間等の非稼働時間帯で消費量が比較的多いことが分かりました。

これを運転不要な電気機械は停止させる、照明は入/切させることで、電力を削減できることが分かりました。

【実施した場合の削減量】

投資金額：0 千円

省エネルギー量：28,198 kWh

**削減金額：767 千円/年**      **投資回収：0 年**

原油換算量：6.3 kL

CO2削減量：11.9 t-CO2

## 4. 今後の省エネ化（脱炭素化）に向けて

### 今回の省エネ診断を受けて

客観的な数値と根拠をもって示されたことで、改善の必要性を明確に認識することができました。優先順位を整理し、無理のない形で進めていきたいと思えます。また専門的な内容でありながら、当社の実情に即して分かり易い説明していただいたことに感謝いたします。

### 今後の省エネ化や脱炭素化に向けた意気込み

（もしくは、これから省エネ診断の受診を考えている事業者に一言）

診断結果を一過性の指摘で終わらせるのではなく、現場と情報を共有し、小さな改善を積み重ねていく仕組みづくりが重要だと感じました。意識付けと実行しやすい環境整備を進めていきたいと思えます。

